



開発者目線で紐解く EC-CUBE

HIRONORI TANAKA

カートサービスの種類

- ショッピングモール
- ASPカート
- ECパッケージ
- 独自開発
 - スクラッチ開発
 - オープンソースEC利用開発

オープンソースECのメリット

- ライセンス費用が無料のためECの基本機能の構築費用や工数が削減できる
- 脆弱性やバグへの対策が速い
- 機能やデザインのカスタマイズが自由

オープンソースEC比較

■ 日本で最も普及している EC-CUBE

- 4系はSymfony3フレームワーク
- 日本国内での販売に特化
- オンプレミス、レンタルサーバー、クラウドいずれでも稼働できる

■ 世界で最も普及している Magento

- 独自フレームワーク
- 多言語・他通過対応のため越境EC向き
- CPU負荷が高いためレンタルサーバーは不向き

EC-CUBEバージョン比較

バージョン	最新バージョン	PHPバージョン	フレームワーク	テンプレートエンジン
2.13系	2.13	PHP5.2～5.6 (2018/12/31 セキュリティサポート終了)	独自	Smarty (開発終了)
3.0系	3.0.18	PHP5.4～7.1 (2019/12/1 セキュリティサポート終了)	Silex1.3 (2018/6 開発終了) + Symfony2.7 (2019/5 サポート終了)	Twig1.34
4.0系	4.0.2	PHP7.1～	Symfony3.4	Twig2.6

どのバージョンを選ぶべきか

- セキュリティの観点から4系を推奨
- 決済や外部連携のプラグインが対応しているバージョンを選ぶ



なければ問い合わせる

3系から4系での変わったところ（フロント）

- 商品一覧から商品をカートに追加できる
- 異なる販売種別の商品をカートに入れられる（購入は不可）
- モバイル表示を約12%高速化
- 異なるデバイスでもログインすればカートが復元する

3系から4系での変わったところ（管理）

- ポイントや納品書出力が標準機能化
- 売上状況グラフがTOPに表示される
- 商品一覧で在庫が確認できる
- 商品一覧で公開や削除の変更が一括で行える
- タグ管理ができる
- 出荷（お問い合わせ番号）CSV登録ができる
- 受注一覧が注文単位ではなく出荷単位 → 複数配送管理が便利に
- 受注一覧でお問い合わせ事項が確認できる

3系から4系での変わったところ（管理）

- 受注一覧でお問合せ番号が入力できる
- 受注一覧で対応状況の変更や出荷メール送信が一括で行える
- 注文キャンセル時に在庫とポイントが戻る
- 発送後の返品でポイントが戻る
（在庫は店舗によって対応が異なるため手動）
- メール設定でテキストメールとHTMLメールを設定できる
- 管理画面からプラグインを検索できる

3系から4系での変わったところ（開発）

- path.yml の情報を .env に変更したことで、環境移行時のパス変更が不要になった
- ドキュメントルートが html なしになった
- DBレコードが論理削除から物理削除に変更
- OrderDetail と ShippingItem が、OrderItem に統合
- 受注データが、受注データと出荷データに分割

TO TOEBISU

HIRONORI TANAKA